

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 7 年 3 月 10 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00623

研究課題名（和文）20世紀序盤の東アジアにおける東洋・西洋の共鳴：楽器の響きから考えるピアノ文化

研究課題名（英文）The Culture of Piano Music and the Piano Industry in East Asia in the Early 20th Century

研究代表者

小岩 信治（KOIWA, Shinji）

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：90387522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,400,000 円

研究成果の概要（和文）：20世紀序盤に本邦に存在したピアノに関する情報収集と、可能な場合には実物の調査を行い、収集した情報をデータベースとして公開した。またその時代のピアノを生み出した当時のピアノ産業について資料の収集、分析を行うとともに、ピアノ産業の関係者への聞き取り調査を実施した。研究書・論文・シンポジウム・コンサートによって研究成果を公開するとともに、この時代の貴重な楽器を所蔵する文化施設に対して専門的知見を提供することで、楽器の今後の保存に関する施策にも貢献している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西洋音楽が明治維新から半世紀あまりのあいだに日本で普及する過程で重要な役割を果たしたはずの楽器、ピアノについて、かの時代のピアノの網羅的な調査を通じて、おおむね大正期までに存在したピアノの響き、そしてそれをめぐる産業を含めて、音楽文化の諸相を検証しようとする研究である。

研究成果の概要（英文）：Information was collected on pianos that existed in Japan at the beginning of the 20th century and, where possible, actual objects were examined and the information collected was published in a database. In addition, data was collected and analysed on the piano industry of the time, which produced the pianos of this era, and interviews were conducted with people who worked in the piano industry. The results of the research have been publicised through books, articles, symposia and concerts. In addition, the research has contributed to measures for the future preservation of the instruments by providing expert knowledge to cultural institutions that own valuable instruments from this period.

研究分野：音楽学

キーワード：ピアノ 日本 産業

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

明治・大正期において、ヨーロッパに由来する音楽が既存の音楽文化とせめぎ合いながら定着する過程において、ピアノは新しい音楽文化を体現する象徴的な楽器のひとつであった。プロの音楽家の育成にも、学校での音楽教育でもピアノが活用された。しかしその響きが実際にどのようなものであったのかが問われ、音楽史記述に活かされたことはほぼ皆無であったと言える。15K02100の研究はそのような状態に鑑みた基礎作業として、20世紀の第1四半世紀、おおむね大正期までに本邦に存在したピアノの調査を行った。

2. 研究の目的

本研究は上記 15K02100 の発展的な課題として、ひきつづき当時国内に存在したピアノについて調査しながら、20 世紀序盤のピアノ産業を、主たる考察対象を本邦に据えつつ、それを当時の東アジアそして世界の脈絡で捉えるべく、そのための楽器調査および基礎資料の収集を目指した。研究期間開始後、COVID-19 のパンデミックにより国外の新規調査が著しく困難になった一方、従来精査されていなかった非公開資料(下記「研究の方法」(4))の整理に参画できることが判明したため、同時期の浜松地域のピアノ産業調査に研究の重心を置き、一方で国策や他産業分野との関係から、また当時不可避だったはずの海外ピアノ産業との関係構築という観点から、当時のピアノ産業の諸相を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

- (1) 大正期までに本邦に存在したピアノの実物調査(現存する楽器について、基本的な仕様のほか打弦機構、ハンマー等に関するデータを収集)
- (2) 同時期に本邦に存在したピアノについて網羅的に把握するための情報収集
- (3) 海外の研究機関等との連携、歴史的ピアノ活用事例の視察
- (4) 大橋幡岩ピアノ資料(浜松市博物館蔵)の調査への協力
- (5) 本邦のピアノ産業関係者へのインタビューの実施
- (6) 本邦のピアノ産業関係資料の収集、分析
- (7) 河合楽器製作所、ヤマハ各社における社史検証活動との連動

4. 研究成果

- (1) 以下のピアノに関する実物調査を行った。
 - Becker グランドピアノ(愛知県安城市 アンフォーレ)
 - Biese アップライトピアノ(上野学園大学)
 - 周 アップライトピアノ(北海道教育大学旭川校)
 - ヤマハ グランドピアノ(浜松市博物館)
 - ヤマハ グランドピアノ(東京・港区教育委員会/区立郷土歴史館)
 - Mann / Doering アップライトピアノ(大阪府高石市 高石教会)
- (2) 以上のピアノのほか、対象時期のピアノに関する情報を、次の組織・機関等と連携して収集した。
 - 大阪大学中之島芸術センター、大原美術館、国立音楽大学楽器学資料館、熊本市立白川小学校、水戸市・旧水海道小学校/茨城県立歴史館、山鹿市立博物館、山形県立博物館ほか
- (3) 上記(1)(2)によって収集したピアノ情報データベースのパイロット版を公開した。
- (4) 上記、方法(2)に挙げた諸組織のほか、次の自治体における歴史的ピアノ所蔵施設と、研究成果を共有して協力し、次の成果を挙げた。
 - 安城市：行政への働きかけに際して専門的知見を提供することで、楽器の展示・保管体制の改善に貢献
 - 東京都港区：「日本楽器製造株式会社製初期グランドピアノ」の2022年度区文化財指定に向けて、またその後の展示や修復への助言
- (5) 上記(3)として、オランダ・E. ブンク工房およびドイツ・ライプツィヒ大学楽器博物館と連携し、歴史的ピアノ活用事例を視察した。また後者の協力のもと、大戦間における日独のピアノ産業に関する公文書の予備調査を実施した。
- (6) 歴史的ピアノを活用する大規模イベントとしてのショパン国際ピリオド楽器コンクール(第1回、ポーランド・ワルシャワ、2018年)について調査した。さらに、出場者を含め専門的知見を持つ方々が登壇するシンポジウム(一橋大学、2019年)を開催してこの催しの意義などについて知見を集約し、それを出版物としても公開した(一橋大学大学院言語社会研究科紀要『言語社会』、2020年)。
- (7) 上記、方法(4)の大橋幡岩ピアノ資料の文書資料について、浜松市博物館で着手されたものの完成に至っていなかった目録を整備し、それに関連する調査活動普及のためにコンサートを開催(浜松市博物館、2022年) また同資料について日本音楽学会全国大

会（西南学院大学、2022 年）で報告した。

- （ 8 ）ピアノ産業関係者インタビュー：4 名に対して実施した。またエスピー楽器（静岡県磐田市）を訪問調査した。
- （ 9 ）ピアノ産業史研究：大野木吉兵衛による山葉寅楠関係の未刊原稿および取材ノート、河合小市関連資料の検証・翻刻を行った。
- （ 10 ）上記一連の活動にあたって、河合楽器製造所およびヤマハ（企業アーカイヴズ）の、社史検証にかかわるスタッフと産学連携し、また今後の研究体制を構築した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井上さつき	4. 巻 -
2. 論文標題 モダンピアノの誕生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『東京・春・音楽祭』公式プログラム	6. 最初と最後の頁 202 - 205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小岩信治	4. 巻 14
2. 論文標題 【報告】一橋大学国内交流セミナー シンポジウム「歴史的ピアノと音楽文化 第一回ショパン国際ピリオド楽器コンクールをふりかえる」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語社会	6. 最初と最後の頁 303 - 320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥中康人	4. 巻 37
2. 論文標題 日本にピアノがやってきた	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ショパン	6. 最初と最後の頁 20 22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 初期国産ピアノと漆工
3. 学会等名 日本音楽学会（第74回全国大会）
4. 発表年 2023年

1．発表者名 井上さつき
2．発表標題 国産ピアノと漆工
3．学会等名 法政大学比較経済研究所・京都工芸繊維大学KYOTO AGORAcommons研究会主催シンポジウム「漆 輸出される技工」（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 井上さつき
2．発表標題 『上海フランス租界への招待』を西洋音楽史の立場から読む
3．学会等名 日仏会館・フランス国立日本研究所、科学研究費基盤研究B「上海フランス 租界を結節点とする日仏中三カ国の文化交流史」共催ラウンドテーブル（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 小岩信治・小倉貴久子・太田垣至・松尾梨沙・川口成彦
2．発表標題 第1回ショパン国際ピアノコンクールについて 演奏者・楽器制作者・音楽学者の視点から
3．学会等名 一橋大学国内交流セミナー シンポジウム「歴史的ピアノと音楽文化；第1回ショパン国際ピアノコンクールをふりかえる」
4．発表年 2019年

1．発表者名 奥中 康人・磯部 弘司・三浦 広彦・井上 さつき・小岩 信治
2．発表標題 ピアノ製作家、大橋幡岩（1896-1980）をめぐって 浜松市博物館所蔵「大橋ピアノ資料」から見えてくる日本のピアノ製造史
3．学会等名 日本音楽学会（第73回全国大会）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1．著者名 井上 さつき	4．発行年 2020年
2．出版社 中央公論新社	5．総ページ数 288
3．書名 ピアノの近代史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	井上 さつき (Inoue Satsuki) (10184251)	愛知県立芸術大学・(なし)・名誉教授 (23902)	
研究 分担者	奥中 康人 (Okunaka Yasuto) (10448722)	静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授 (23804)	
研究 分担者	大角 欣矢 (Osumi Kinya) (90233113)	東京藝術大学・音楽学部・教授 (12606)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	武石 みどり (Takeishi Midori) (70192630)	東京音楽大学・音楽学部・教授 (32646)	
研究 協力者	森 みゆき (Mori Miyuki) (00738552)	尚絅大学・こども教育学部・准教授 (37404)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ライプツィヒ楽器博物館・ライプツィヒ大学			
オランダ	エドウィン・ブンク工房			